

ふるさとで心豊かに学び、生き生きと活動できる生徒の育成

武生第二中学校坂口分校

1 はじめに

武生第二中学校坂口分校は坂口幼稚園・坂口小学校との幼小中併設校であり、「坂口校」として、園児5名、小学生23名、中学生12名がともに自然ゆたかな環境のなかで学んでいる。小中学校の教員には兼務辞令が発令され、全職員で全児童生徒の教育に携わっている。分校の教員は5名で、それぞれ主要5教科を担当している。また、音楽、美術、家庭科には免外緩和非常勤講師が指導に当たっている。武生第二中学校とは、入学式や卒業式、学校祭等の学校行事を通して交流し、学習面についても、常に連絡をとり合って授業を進めている。また、毎月1回校長を迎えて「分校集会」を開催している。公民館や「越前市エコビレッジ交流センター」などでの地域と密着した活動にはほとんどの生徒が自主的に参加している。また、体育大会や学習発表会などの学校行事も、地域と共に行うことが伝統として受け継がれている。

「坂口を愛する生徒の育成」を掲げる坂口分校への地域からの期待は大きい。ふるさと坂口を愛し、活動する生徒の育成をめざし、総合的な学習の時間において「坂口活性化プロジェクト」をテーマに、ふるさと坂口に貢献する活動に取り組んだ。

2 実践事例

(1) 府中馬借街道トレイルラン（6月17日）

坂口地区トレイルラン実行委員会が開催する「府中馬借街道トレイルラン」に、生徒が運営スタッフとしてボランティア活動に取り組んだ。生徒たちはトレイルランを盛り上げる方策について話し合い、優勝者に手作りの桂冠を贈呈することを決めた。学校周辺の山から材料となる植物を採集し、桂冠を製作した。トレイルラン当日は、選手受付、給水所のエイド活動など、実行委員会から依頼された運営活動の他、競技終了後の交流会で越前市や坂口地区に関するクイズを行って県内外から集まった選手約170名にふるさとを紹介した。選手たちからは、「全国各地のトレイルラン大会に参加しているが、この大会は地域全体で歓迎してくれる、真心がこもったすばらしい大会である。」と賞賛の声をいただいた。



(2) 坂口地区おかえりなさい納涼祭（8月14日）

昨年度から坂口地区自治振興会が主催する「坂口地区おかえりなさい納涼祭」に中学生が参画している。今年のステージ企画では生徒たちが本格的なマジックショーを披露し、集まった大勢の観客から大きな拍手をいただいた。また、無料のゲームコーナーを運営し、幼児から高齢者まで多くの地域の人々にゲームを楽しんでもらった。

お盆の行事であるため、地域住民だけでなくふるさとに帰省した人たちも多く集まり、たいへん賑やかな納涼祭となった。生徒たちは坂口地区に貢献する活動を通して自己有用感を味わい、ふるさと坂口を愛する心を育んだ。



(3) 地域の高齢者との交流 (10月～12月)

坂口の活性化には人口の多数を占める高齢者に元気で長生きしていただく必要があると考えた生徒たちは、そのための方策について話し合った。生徒たちは、まず高齢者について学び、その後自分たちで考えた高齢化対策を実現しようと考えた。そこで坂口公民館の介護予防講座に参加し、作業療法士・介護支援専門員の方から高齢者に対する接し方を学び、インスタントシニア体験に取り組んだ。また、介護予防体操を教わり、10月の学習発表会において地域の人々に介護予防体操を紹介し、実際にみんなで体操を行った。



12月には生徒たちが地域に出向き、高齢者との交流活動を始めた。学校の裏山で採集した材料を使い、高齢者と共にクリスマスリースを作った。はじめは高齢者との会話に戸惑っていた生徒たちであったが、すぐに打ち解けて、本当の祖父母と孫のように、和気あいあいとクリスマスリース作りに取り組んでいた。クリスマスリースが完成すると、脳トレクイズに答えてもらったり、お手玉などの伝承遊びをしたりして、高齢者との楽しい時間を過ごすことができた。

地域の高齢者との交流を通して、生徒は高齢化問題について理解するとともに、自分たちにできることは何かを考えることができた。また、高齢者のみなさんからも、中学生との交流がたいへん嬉しかったと、感謝の言葉をいただくことができた。本年度は2つの町内に出向いたが、来年度はさらに多くの高齢者と交流し、高齢者の健康維持に貢献していきたい。

3 おわりに

12月の親子活動では、毎年「しめ縄作り」教室が行われ、家族でしめ縄作りに取り組んでいる。しめ縄作りでは、自分の兄弟だけでなく、近所の幼稚園児や小学生にも作り方を教えたり手助けしたりする中学生の姿が見られる。中学生が幼稚園児や小学生のお世話をするという行動は、坂口校では当たり前の姿となっている。



平成29年度から始めた「坂口活性化プロジェクト」は、地域行事への参画に始まり、スポーツイベントでのボランティア活動、さらに高齢者福祉へと活動範囲を広げて

いった。それに伴い、「坂口を活性化したい」という生徒の思いが地域の人々に伝わり、生徒たちの活動に対して、地域の様々な人たちから賞賛の言葉をいただくことができた。また、生徒たちも、これまでの活動を通して、ふるさと坂口への郷土愛をさらに深めることができた。生徒たちは地域の人々から、将来の坂口地区のリーダーとなり、地域のために活躍できる人材として期待されている。

坂口分校の生徒数は本年度12名であるが、今後ゆるやかに減少していく見込みである。生徒数が減少する中での活動となるが、これまでの成果を生かし、ふるさと坂口で心豊かに学び、生き生きと活動できる生徒の育成をめざし、「坂口活性化プロジェクト」の取り組みを継続していきたい。